

日台の架け橋に

インターン初受け入れ

南三陸町 ホテルなどで研修開始

南三陸町で、台湾の大学生のインターン受け入れが始まった。南三陸の文化や歴史を学びながら、観光を勉強。町の関係者は台湾での情報発信や友好の架け橋に期待を寄せる。

インターン生を受け 町の委託を受けた南三 観洋。

入れているのは、県や 陸町観光協会、ホテル

インターン生は、日

光協会で男性1人と女性7人の計8人、ホテル観洋では女性2人が研修しており、ご飯はお客さんから向かって左に、みそ汁は右に置くことなどを教わっている。

観光協会で学ぶ、陳忠慶さん（長栄大学4年・23）は「日本を知るチャンスと思って志望した。日本語を勉強して日本と台湾を結び役割をしたい」、観洋で研修を受けている蘇鈺凌さん（南台科技大学・19）と陳育萱さん（同・20）は「多くの方々とお会いすることが楽しい。南三陸町を



配膳のマナーについて指導を受ける研修生（ホテル観洋）

本との交流や観光事業に関心のある台湾南部の台南市と、高雄市の大学で日本語を学ぶ19人。1日までに10人が来町しており、7月中旬には全員がそろそろ。町内の民家にホームステイしたり、宿泊施設の寮などに宿泊しながら1〜2カ月間におたり、観光をはじめ、町の文化や歴史、産業などを学ぶ。

第1陣の10人は、観

もっと知り、台湾に広めたい」と笑顔を見せた。佐藤仁町長は「南三陸の新しい魅力を見つけ、国内外に情報を発信してもらいたい。日本、南三陸と台湾との友好の架け橋になってほしい。充実した日々を過ごしてもらえば」と話している。